第１学年　国語科　学習指導案

１　題材名　いにしえの心に触れる「蓬莱の玉の枝―『竹取物語』から」

２　題材の目標

〇異なる原文を比較することによって書き手の意図を探り，互いに意図を説明し合う活動を通して，古典を学ぶ価値や意義について自分の考えをもつことができる。

	ア	各教科等の特質に応じた**「見方・考え方」**を発揮し，生きて働く**「知識・技能」**を習得すること
〇	イ	各教科等の特質に応じた**「見方・考え方」**を発揮し，未知の状況にも対応できる**「思考力・判断力・表現力等」**を働かせること

〇	a	問題意識を高める学習課題
〇	b	既習内容や既有経験を結び付けた課題解決
〇	C	対話的な活動による課題解決

３　題材と指導の構想

（１）指導の構想

①生徒について＜内容性について＞

生徒は，富士山の名前の由来が「多くの武士を引き連れた」ことにあるということを教科書において既に学習している。多くの生徒が，その教科書の解釈を疑問もなく受け入れている。そこで生徒の主体的な学習活動を促すために，教科書とは異なる文章を提示することで，「どこの部分が違うのだろう？」「内容に違いはあるのだろうか？」など，既得の知識を揺さぶる機会を設定して問題意識を持たせる。

②生徒の主体的な学習活動が促されるように工夫する点＜情意性について＞

生徒の中には、「根拠から理由を導き出せない。」「考えた理由に説得力があるのか自信がない。」と判断に困難さを感じる生徒もいると思われる。そこで，次の手立てを講じる。

ア　生徒の多くが思いつくだろう理由を書いた生徒の意見を全体にアナウンスすることで，書けない生徒に根拠と理由の繋がりの代表例を示す。また，すでに書いている生徒には，一つの根拠から別の理由を考えても良いように促す。

イ　交流活動の時，表現の仕方や内容の違いをメモさせ，自分の考えを広げるために用いるよう指示する。「なるほど」と感心したものを加筆する場合と，同じ考えだが異なる表現のものに加筆する場合を意図的に分けてメモをとるように指示する。

ウ　生徒の意見を短冊に書かせ，一覧できるように黒板に掲示していく。根拠と理由の論点が明らかになるように，授業者が生徒に質問しながら意見を具体化し，同類とされる考えは授業者が生徒の言葉を大事にしながらわかりやすくまとめる。

③かかわり合いながらねらいを達成させるための具体的な手立てや指導上の留意事項＜集団性について＞

それぞれの『竹取物語』の結末の良さを選択することで，自ずと判断の理由と根拠を説明する必要と，その説明の検証が必要とされる。そこで交流活動を組織し，各々が自分の考えの確かさと広がりに期待して仲間と関わりあいを推進し，自信と疑問をもって課題を追究できる場面を設定する。

４　題材と指導の構想

（１）指導計画（全６時間）

〇古典特有の表現やリズムに注意しながら音読することでその調子に慣れ，文章を味わう。（２時間）

〇本文の内容を理解し，各場面においての登場人物の心情を想像する。（３時間）

〇２種類の最終場面を比較し，「竹取物語」の終末としてどちらがより魅力的かを考える活動を通して，古典を学ぶ価値と意義について意見をもつ。（１時間）

5　本時の計画（６時間目／全６時間）

（１）本時のねらい

表現が異なる２つの「竹取物語」の結末を，帝の人物像を踏まえて選択する活動を通して，当時の様子を理解し，人を思う気持ちが普遍的であることに気づくことができる。

（２）本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される生徒の反応	■評価規準・○留意点
１　二つの結末の異なる部分を確認する。 ２　二つを比較し，どちらが「竹取物語」の世界を伝える文章として良いのかを考える。	ワークシートのＡとＢの古文を全員で音読する。 Ｔ１：みなさんには教科書と違う文章を紹介しました。さて，大きく違っていた部分はどこでしたか？ Ｓ１：富士山の名前の由来のところです。 Ｔ２：そうですね。他にも細かい違いがありました。違うことによって伝わってくる良さも違ってきます。 Ｔ３：また違うといえば，この最後の場面で注目すべきはかぐや姫ではありません。注目すべき人物は誰ですか？ Ｓ２：やっぱり帝かなぁ。 Ｔ４：そうですね。みなさんはＡとＢのどちらが，より帝のことを伝えていると思いますか？みんなで考えてみましょう。 【学習課題】帝という人物がより伝わってくる結末はどちらか？	○結末の表現が違うＡとＢの違いを明記した拡大プリントを掲示する。 ○帝という人物を通して，それぞれの文章から伝わることを読み取る活動であることを示唆する。
３　自分の考えを形成する。	Ｔ５：まず自分の考えをつくりましょう。ＡかＢかを判断し，その理由をできるだけ多く書きなさい。 Ｓ２：Ａだと思う。当時の帝の権力の大きさが伝わるから。 Ｓ３：Ｂだと思う。不死の薬を焼くほどの帝のかぐや姫への強い思いが感じられるから。 Ｔ６：それではＡかＢかの判断をネームプレートで表してもらいます。号車ごとに前に出てきて貼ってください。	○判断とその理由が明快な例をアナウンスし，一つでも多く書かけるように促す。 ■自分の意見を形成しようとしている。（関心・意欲・態度）
４　同じ意見の仲間で小グループを作り，理由と根拠について考えを深め合う。	Ｔ７：同じ意見同士で話し合いをします。仲間の意見を参考にして互いの考えを深め，確認し合いましょう。	○人数を確認し，バランスを考慮して，同じ意見同士でグループ構成をする。 ○「なるほど」と思った場合は◎を，同じ考えだが異なる表現の場合は☆を頭に置いてメモするよう指示する。
５　グループもしくは個人の意見を発表し合う。	Ａ　予想される生徒の理由 ・表現が短くてわかりやすく伝わりやすいから ・帝が何をしたのかが伝わりやすいから ・多くの兵士を登らせた帝の権力の強さが伝わるから Ｂ　予想される生徒の理由 ・不死の薬よりもかぐや姫の方が大切だという帝の気持ちが伝わるから ・不死の薬の煙が消えないことで，帝の悲しみが継続していることが伝わるから	○授業者が質問しながら論点を整理し，理由・根拠の枠に分類しながら掲示する。 ○発言が苦手な生徒の記述を積極的に紹介する。 ○ＡとＢの人数比が悪い場合は多人数派に，もう一方の立場でも考えるよう促す。

	Ｔ８：それではみなさんの話し合いの成果をまとめましょう。Ａは当時の帝の大きさがより伝わってきます，Ｂは帝の愛する人を失った深い悲しみが伝わってきます。どちらの文章も，帝という人物のことをより伝えてくれていますね。 【まとめ】　Ａは当時の帝の力の大きさ　がより伝わってくる Ｂは帝の深しみの大きさ　　がより伝わってくる	
６　学習を振り返る。	Ｔ９：それでは今日の授業を次の２点から振り返りましょう。 ①今日の授業で気づいたこと ②今日の授業で感心した仲間の意見	○振り返りの観点を共有する。 ■「現代と違うところ」「現代に通じるところ」という二つの観点をもっている。（読むこと・伝統的言語文化）

（４）本時の評価

・自分の意見を形成しようとしている。（関心・意欲・態度／観察・ワークシート）

・「現代と違うところ」「現代に通じるところ」という二つの観点をもっている。

（読むこと・伝統的言語文化／ワークシート）

【板書計画】

竹取物語

課題　帝という人物がより伝わってくる結末はどちらか？

【理由】

＊帝の権力の強さが伝わるから

＊文が短めでわかりやすいから

＊帝が何を行ったかが伝わりやすいから

【根拠】

＊「士に言む山」→たくさんの兵士たちを山に登らせた

＊「不死の薬焼いた話がない」→「士が言む＝帝の力」を優先

＊「倒文」→帝とかぐや姫への敬意？

Ａが良い　※生徒のネームプレートを張る

Ｂが良い　※生徒のネームプレートを張る

【理由】

＊かぐや姫を失った帝の悲しみが伝わるから

＊煙が消えないことが悲しみが消えないことを表しているから

＊伝え方が丁寧で帝の気持ちが伝わるから

＊帝の神聖さが伝わるから

【根拠】

＊「不死の薬」を焼いたことと

＊「いまだにがその煙より先」→煙＝帝の悲しみ を強調

＊「不死の山」→神聖なる山

まとめ　Ａはその当時の帝の力の大きさ

Ｂは帝の悲しみの大きさ　がより伝わってくる

【期待する生徒の振り返り】

①古典を学習する時には，その時代における登場人物の立場がわかっていると理解が進むことに気づいた。また，その当時の人物の心情が，現在の私たちと同じものかどうか比べると面白いことも気づいた。

②「愛する人を失う悲しみは昔も今もそんなに変わらないと思うよ。」という仲間の意見になるほどと思った。「誰かを思う気持ちは今も昔も変わらない」という考え方をもつと，古典が身近なものに感じられるなと思った。